



OpenDocument によるドキュメントの表示

■ SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 Support Package 2

2011-05-06

著作権

© 2011 SAP AG. All rights reserved.SAP、R/3、SAP NetWeaver、Duet、PartnerEdge、ByDesign、SAP Business ByDesign、および本書に記載されたその他のSAP製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、ドイツおよびその他の国々におけるSAP AGの商標または登録商標です。Business ObjectsおよびBusiness Objectsロゴ、BusinessObjects、Crystal Reports、Crystal Decisions、Web Intelligence、Xcelsius、および本書で引用されているその他のBusiness Objects製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、米国およびその他の国々におけるBusiness Objects S.A.の商標または登録商標です。Business ObjectsはSAPのグループ企業です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。本書に記載されたデータは情報提供のみを目的として提供されています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。これらの文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。また、これらの文書はSAP AGおよびその関連会社(「SAPグループ」)が情報提供のためにのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAPグループは文書に関する誤記・脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAPグループの製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

2011-05-06

目次

第 1 章	はじめに.....	5
1.1	このドキュメントについて.....	5
1.1.1	このドキュメントの対象者.....	5
1.1.2	OpenDocument について.....	5
1.2	SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 の新機能.....	6
1.3	リンクの移行.....	6
1.3.1	デフォルト URL パスの変更.....	6
1.3.2	使用停止のパラメータ.....	7
第 2 章	OpenDocument 構文.....	9
2.1	基本的な URL 構文.....	9
2.2	URL 構文に関する考慮事項.....	9
第 3 章	セッション管理.....	11
3.1	シリアライズ セッション.....	11
3.2	ログオン トークン.....	12
3.3	ユーザー セッション	12
第 4 章	パラメータリファレンス.....	15
4.1	セッション管理パラメータ.....	17
4.1.1	serSes.....	17
4.1.2	token.....	18
4.2	ドキュメントの ID パラメータ.....	19
4.2.1	iDocID.....	19
4.2.2	sDocName.....	19
4.2.3	sIDType.....	20
4.2.4	sInstance.....	21
4.3	入力パラメータ.....	21
4.3.1	IsC.....	21
4.3.2	IsM[NAME].....	22
4.3.3	IsR[NAME].....	23
4.3.4	IsS[NAME].....	23

4.3.5	sPartContext.....	25
4.3.6	sRefresh.....	25
4.3.7	sReportMode.....	26
4.3.8	sReportName.....	26
4.3.9	sReportPart.....	27
4.4	出力パラメータ.....	27
4.4.1	NAII.....	28
4.4.2	sOutputFormat.....	28
4.4.3	sViewer.....	29
付録 A	より詳しい情報.....	31
	索引	33

はじめに

1.1 このドキュメントについて

このドキュメントは、OpenDocument 構文を使用するパラメータ付き URL の作成に関する情報を提供します。OpenDocument URL は、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform インストール内のビジネス インテリジェント (BI) ドキュメントにリンクします。OpenDocument URL パラメータごとに、構文と使用例を含むパラメータリファレンスが用意されています。

BI platform のインストール後に OpenDocument Web アプリケーションをデプロイする方法については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence Platform Web アプリケーション デプロイメント ガイド』を参照してください。

1.1.1 このドキュメントの対象者

このドキュメントは、OpenDocument 構文を使用して BI ドキュメントの URL を作成するユーザーを対象とします。次の作業を行うユーザーは、このガイドを参照することをお勧めします。

- ・ 電子メールなどの直接的方法によってドキュメントへのハイパーリンクをエンドユーザーに提供する。
- ・ ドキュメントへのハイパーリンクを別のドキュメントに埋め込む。
- ・ カスタムアプリケーションでプログラムによってドキュメントへのハイパーリンクを生成する。

BI platform インストールでのオブジェクトの管理と構成に関する知識があると、理解に役立ちます。

1.1.2 OpenDocument について

OpenDocument は、BI platform インストール内にデプロイされる多くの Web アプリケーションの 1 つです。ドキュメントなどの表示可能なオブジェクトタイプの着信 URL 要求を Central Management Server (CMS) で処理し、正しいドキュメントをエンドユーザーの適切なビューアに提供します。これにより、ドキュメントへの直接リンクをユーザーに送信できるため、ユーザーは BI 起動パッドなどでフォルダ階層内を移動する必要がありません。OpenDocument 構文とそのパラメータを使用して、これらのドキュメントにリンクする URL を作成できます。たとえば、次の URL を考えてみます。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&SIDType=CUID
```

注

<servername>:<port> を、OpenDocument がデプロイされる Web サーバーの名前とポート番号に置き換えます。

この URL は、Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI という CUID 値を持つ CMS 内のオブジェクトにアクセスします。たとえば、このオブジェクトが Crystal レポートの場合は、ユーザーのデフォルトの SAP Crystal Reports Viewer にレポートが表示されます。この例の iDocID は、多くの URL パラメータの 1 つです。これらのパラメータは、CMS 内の特定のドキュメントにアクセスする方法を指定したり、ユーザーにドキュメントを表示する方法を決定します。

OpenDocument 構文を使用して、表示可能なさまざまなオブジェクトタイプにリンクできます。次の例があります。

- ・ Crystal レポート
- ・ Web Intelligence ドキュメント
- ・ Analysis ワークスペース
- ・ BI 起動パッドワークスペース
- ・ Dashboard Design オブジェクト (旧 Xcelsius)

これらの種類の BI ドキュメントに使用されるデザイナーのいくつかには、ドキュメントに openDocument URL を埋め込む際に役立つ GUI ベースの URL ビルダが用意されています。これらの機能については、各製品のドキュメントを参照してください。

1.2 SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 の新機能

serSes パラメータ

serSes パラメータを使用して、シリアライズ Enterprise セッションを OpenDocument URL に渡すことができますようになりました。カスタム アプリケーションでユーザーにログオン プロンプトを繰り返し表示しないようにするには、このパラメータを使用します。

serSes パラメータとユーザー セッションの管理の詳細については、11 ページの「[セッション管理](#)」と17 ページの「[serSes](#)」を参照してください。

1.3 リンクの移行

1.3.1 デフォルト URL パスの変更

SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 では、OpenDocument Web アプリケーション バンドルのデフォルト URL が変更されています。新しい絶対 OpenDocument リンクでは、新しいデフォルト URL を使用する必要があります。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?<parameter1>&<parameter2>&...&<parameterN>
```

既存のリンクを含むレポートを XI 3.x リリース プラットフォームから移行する場合は、Web サーバーで次のリダイレクトを設定して、この問題を解決します。

- ・ リダイレクト元:../OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp
- ・ リダイレクト先:../BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp

注

- ・ 設定したリダイレクトによってすべての URL 要求パラメータが正しく転送されることを確認します。リダイレクトを実装する方法の詳細については、Web サーバーのマニュアルを参照してください。
- ・ SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 では、OpenDocument の Java デプロイメントのみがサポートされています。OpenDocument Web バンドルは、BOE.war ファイルに含まれます。

1.3.2 使用停止のパラメータ

このセクションでは、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 で使用停止および廃止された OpenDocument パラメータを一覧します。廃止されたパラメータはサポートされません。

注

参考のため、SAP BusinessObjects Enterprise XI 3.1 Service Pack で使用停止および廃止されたメンバーも一覧します。

表 1-5: 使用停止のパラメータ

パラメータ	説明	置換
sIDType=GUID 注 SAP BusinessObjects Enterprise XI 3.1 SP3 で使用停止)	表示可能なドキュメントを指定するために GUID を使用することを指定します。iDocID と共に使用します。	代わりに sIDType=CUID を使用してください。
sIDType=RUID 注 SAP BusinessObjects Enterprise XI 3.1 SP3 で使用停止)	表示可能なドキュメントを指定するために RUID を使用することを指定します。iDocID と共に使用します。	代わりに sIDType=CUID を使用してください。

パラメータ	説明	置換
sKind	ターゲット Desktop Intelligence ドキュメントの SI_KIND プロパティを指定します。	代わりに iDocID を使用してください。
sPath	ターゲットドキュメントのファイルパス。	代わりに iDocID を使用してください。 注 sPath は、このリリースに含まれるローカライズされたフォルダ名の使用をサポートしません。sPath を使用して CMS 内に保存されている正しいフォルダ名を参照するレガシードキュメントは、使用停止状態の間も引き続き機能します。ただし、iDocID パラメータを使用するリンクに移行することをお勧めします。
sType	ターゲットドキュメントのファイルタイプを指定します。	代わりに iDocID を使用してください。
sViewer=actx	Crystal Reports ActiveX ビューアを指定します。	代わりに、sViewer=html または sViewer=part を使用してください。ActiveX ビューアは、このリリースで使用停止になりました。
sViewer=java	Crystal Reports Java Applet ビューアを指定します。	代わりに、sViewer=html または sViewer=part を使用してください。Java Applet ビューアは、このリリースで使用停止になりました。

表 1-6: 廃止されたパラメータ

パラメータ	説明	置換
sWindow 注 SAP BusinessObjects Enterprise XI 3.1 SP3 で廃止	ターゲットドキュメントを現在のブラウザウィンドウで開くか、新しいウィンドウを起動するかを示します。	HTML アンカーの target 属性などを使用します。例: ...

OpenDocument 構文

2.1 基本的な URL 構文

OpenDocument URL の基本的な構文は、次のとおりです。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?<parameter1>&<parameter2>&...&<parameterN>
```

注

変数は山かっこで示しています。これらの変数を適切な値に置き換えてください。たとえば、OpenDocument Web アプリケーションにアクセスするには、<servername> に OpenDocument がホストされている BI platform サーバーの名前を使用し、<port> に正しいポート番号を使用する必要があります。

2.2 URL 構文に関する考慮事項

ドキュメントへのアクセス

表示するドキュメントを指定するには、OpenDocument URL に iDocID パラメータまたは sDocName パラメータを含める必要があります。Central Management Server (CMS) に同じ名前のドキュメントが複数存在する場合や、ドキュメントが移動されたり名前が変更される場合があるため、各ドキュメントが一意になるように iDocID を使用することをお勧めします。

パラメータの結合

パラメータはアンパサンド(&)で結合します。アンパサンドの前後にスペースを入れないでください。たとえば、sType=wid&sDocName=Sales2003 です。

パラメータとパラメータの間には必ずアンパサンドが必要です。

パラメータ値内のスペースと特殊文字

ブラウザによってはスペースを解釈できない場合があるため、URL エンコードが必要な特殊文字やスペースをリンクのパラメータに入れることはできません。特殊文字が誤って解釈されないようにするには、特殊文字をエスケープシーケンスに置換するために、ソースデータベースで URL エンコード文字列を定義します。これにより、データベースは特殊文字を無視し、パラメータ値を正しく解釈できます。RDBMS によっては、ある特殊文字を別の特殊文字に置換する機能があります。

プラス記号(+)のエスケープシーケンスを作成することで、プラス記号をスペースとして解釈するようにデータベースに指示できます。この場合、「Sales Report for 2003」というドキュメントタイトルは、DocName パラメータで &sDocName=Sales+Report+for+2003& のように指定します。

この構文により、データベースがタイトル内のスペースを誤って解釈しなくなります。

また、シリアライズ セッション (serSes パラメータを使用) およびログオン トークン (token パラメータを使用) の値は、OpenDocument URL 文字列に渡す前に、アプリケーションで URL エンコードする必要があります。

パラメータ値の末尾のスペース

パラメータ値やプロンプト名の末尾のスペースは削除します。このようなスペースをプラス記号 (+) で置き換えないでください。そうしないと、プラス記号 (+) をプロンプト名の一部として解釈するか、スペースとして解釈するかをビューアが判断できない場合があります。たとえば、次のようなプロンプト名を考えます。

Select a City: _

この _ はスペースを表します。この場合、リンクには、次のようなテキストを入力します。

lsSSelect+a+City:=Paris

プロンプト名内のスペースはプラス記号に置き換え、末尾のスペースは削除しました。

大文字と小文字

OpenDocument のすべてのパラメータとパラメータ値は、大文字と小文字が区別されます。

URL の長さの制限

OpenDocument は、要求されたドキュメントにリダイレクトする際に URL に文字を追加することがあります。ただし、エンコードされた URL が、サポートされているブラウザの最大文字数の制限を超えることはできません。たとえば、Internet Explorer の一部のバージョンでは、URL の長さが 2083 文字に制限されています。したがって、ブラウザの文字制限を確認し、URL が最大文字数の範囲内に収まるようにしてください。

サブレポートへのリンク内のパラメータ値

ターゲット Crystal レポートのサブレポートにパラメータ値を渡すことはできません。

新しいウィンドウを開く

OpenDocument HTML リンクで新しいブラウザ ウィンドウを開くには、HTML アンカーの target 属性などを使用します。以下はその例です。

```
<a href="http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opensdoc/<platformSpecific>?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&slIDType=CUID" target="_blank">hyperlink text</a>
```

セッション管理

通常、OpenDocument リンクを使用して BI platform 内のセキュリティで保護されたドキュメントにアクセスする場合、ユーザーは認証情報を要求されます。ユーザー名とパスワードの情報を入力しなくても済むように、OpenDocument には 2 つのパラメータが用意されています。OpenDocument URL にシリアル化 セッションまたはログオントークンのいずれかを直接挿入できます。これにより、ドキュメントにアクセス可能な期間を制御できます。OpenDocument URL は、さまざまな言語に設定できます。

3.1 シリアル化 セッション

OpenDocument では、OpenDocument URL に serSes パラメータを挿入することで、シリアル化 セッションを使用できます。これにより、ユーザーは認証情報を要求されることなくファイルにアクセスできます。シリアル化 セッションを作成しても、追加のライセンスは使用されません。元のユーザーのセッションがタイムアウトになるか、ログオフすると、シリアル化 セッションが期限切れになります。

例

次の例は、BI platform Java SDK を使用して、OpenDocument URL にシリアル化 セッションを渡します。IEnterpriseSession.getSerializedSession メソッドの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Java API リファレンス』を参照してください。

```
String openDocumentSerSes() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    IEnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().login("username", "password", "<cms>:<port>", "secEnterprise");
    String serSession = sess.getSerializedSession();
    String serSesEncode = URLEncoder.encode(serSession, "UTF-8");
    return ("http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/.opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&slDType=CUID&serSes="
        + serSesEncode);
}
```

注

- ・ <server>:<port> を Web サーバーのサーバー名とポート番号に置き換えます。
- ・ <cms>:<port> を Central Management Server (CMS) の名前とポート番号に置き換えます。
- ・ シリアル化 セッションは URL エンコードする必要があります。
- ・ シリアル化 セッションを使用する OpenDocument URL にはユーザー セッションが含まれるため、セキュリティの理由から、これを共有してはなりません。

3.2 ログオントークン

OpenDocument では、OpenDocument URL に token パラメータを挿入することで、ログオントークンを使用できます。ログオントークンを使用すると、ユーザーに認証情報を要求しなくても、BI platform 内のセキュリティで保護されたファイルへのアクセスを提供できます。同時に、ファイルにアクセス可能な期間を制御することもできます。新しいログオントークンを作成すると、1 つの追加ライセンスが使用されます。

例

次の例は、BI platform Java SDK を使用して、OpenDocument URL にログオントークンを渡します。ILogonTokenMgr.createLogonToken メソッドの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Java API リファレンス』を参照してください。

```
String openDocumentToken() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    IEnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().login("username", "password", "<cms>:</port>", "secEnterprise");
    String token = sess.getLogonTokenMgr().createLogonToken("", 120, 100);
    String tokenEncode = URLEncoder.encode(token, "UTF-8");
    sess.logoff();

    return ("http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&siDType=CUID&token="
        + tokenEncode);
}
```

注

- ・ <server>:<port> を Web サーバーのサーバー名とポート番号に置き換えます。
- ・ <cms>:<port> を Central Management Server (CMS) の名前とポート番号に置き換えます。
- ・ createLogonToken メソッドを使用すると、トークンを使用できるコンピュータ (任意のユーザーにトークンの使用を許可する場合は空に設定)、トークンが有効な分数、およびトークンを使用できるログオン数をパラメータとして指定できます。新しく作成されるログオントークンは別のセッションを使用するため、元のセッションをログオフするために sess.logoff を呼び出します。
- ・ ログオントークンを使用する OpenDocument URL にはユーザー セッションが含まれるため、セキュリティの理由から、これを共有してはなりません。

3.3 ユーザー セッション

BI 起動パッドまたは CMC から使用される OpenDocument は現在のユーザー セッションにアクセスするため、ユーザーは認証情報を入力する必要がありません。OpenDocument URL を使用してドキュメントを表示すると、次の場合を除き、ユーザーは認証情報を要求されます。

- ・ デプロイされた OpenDocument Web アプリケーションに Vintela または Siteminder SSO が設定されている場合。
- ・ OpenDocument URL が serSes パラメータまたは token パラメータを使用している場合。
- ・ OpenDocument アプリケーションがそのブラウザ セッションに対応する既存のユーザー セッションを持っている場合。

既存のセッションが serSes パラメータまたは token パラメータ内のセッションと異なる場合は、既存のセッションが閉じられ、新しいセッションが作成されます。つまり、serSes パラメータまたは token パラメータを使用して、既存のユーザー セッションを上書きできます。OpenDocument アプリケーションは、Web アプリケーション セッション内とクッキー内で既存のユーザー セッションを探します。

注

1 つのブラウザ セッションからは、1 つの OpenDocument セッションだけを作成できます。

新しい serSes パラメータまたは token パラメータが正しくなく、既存のユーザー セッションがある場合、OpenDocument は現在のユーザー セッションを使用してドキュメントを開こうとします。開くことができない場合は、ユーザーに認証情報を要求します。

パラメータリファレンス

このセクションは、使用できる OpenDocument パラメータの詳細、その固有の使用方法、および使用例を提供します。

注

OpenDocument リンクがポイントするドキュメントは、ターゲットドキュメントと呼ばれます。

表 4-1: セッション管理パラメータ

パラメータ	説明
17 ページの 「serSes」	有効なシリアルライズ Enterprise セッションを指定します。
18 ページの 「token」	現在の Enterprise セッションの有効なログオントークンを指定します。

表 4-2: ドキュメントの ID パラメータ

パラメータ	説明
19 ページの 「iDocID」	CMS 内の表示可能なドキュメントの一意の識別子を指定します。sIDType と共に使用します。
19 ページの 「sDocName」	CMS 内の表示可能なドキュメントの名前を指定します。
20 ページの 「sIDType」	表示可能なドキュメントの指定に使用するオブジェクト識別子のタイプを指定します。iDocID と共に使用します。
21 ページの 「sInstance」	開くターゲットドキュメントのスケジュールされたインスタンスを指定します。sDocName または iDocID と共に使用します。

表 4-3: 入力パラメータ

パラメータ	説明
21 ページの 「lsC」	SQL の生成時にあいまいさが発生する場合に、Web Intelligence ドキュメントを選択するためのコンテキストプロンプトを指定します。
22 ページの 「lsM[NAME]」	プロンプトの複数の値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。
23 ページの 「lsR[NAME]」	プロンプトの範囲値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。
23 ページの 「lsS[NAME]」	1 つのプロンプトの値を指定します。[NAME] はプロンプトのテキストです。
25 ページの 「sPartContext」	Crystal レポートパーツのデータコンテキストを指定します。sReportPart と共に使用します。
25 ページの 「sRefresh」	ターゲットドキュメントを開いたときにデータベースを強制的に最新表示するかどうかを示します。
26 ページの 「sReportMode」	このリンクでターゲットの Crystal レポート全体を開くか、指定されたレポートパーツだけを開くかを示します。
26 ページの 「sReportName」	ターゲットドキュメントに複数のレポートが含まれる場合に、開くレポートを指定します。
27 ページの 「sReportPart」	開くターゲット Crystal レポートのパーツを指定します。

表 4-4: 出力パラメータ

パラメータ	説明
28 ページの 「NAII」	Interactive Analysis プロンプトのプロンプト選択ページを表示するかどうかを示します。
28 ページの 「sOutputFormat」	ターゲットドキュメントを開く形式を指定します。

パラメータ	説明
29 ページの「 sViewer 」	選択されたレポートビューアを指定します。

4.1 セッション管理パラメータ

4.1.1 serSes

構文	説明	値
serSes	有効なシリアライズ Enterprise セッションを指定します。	現在の Enterprise セッションを表すシリアライズ文字列。

現在のユーザーセッションのシリアライズ セッションが含まれます。ユーザーが認証情報を要求されることなくファイルにアクセスできるように、この情報を OpenDocument URL に含めることができます。シリアライズ セッションを作成しても、追加のライセンスは使用されません。元のユーザーのセッションがタイムアウトになるか、ログオフすると、シリアライズ セッションが期限切れになります。

例

次の例は、BI platform Java SDK を使用して、OpenDocument URL にシリアライズ セッションを渡します。IEnterpriseSession.getSerializedSession メソッドの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Java API リファレンス』を参照してください。.NET や Web サービスなどの他の BI platform SDK を使用しても、同様の方法でシリアライズ セッションを取得できます。

```
String openDocumentSerSes() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    IEnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().login("username", "password", "<cms>:<port>", "secEnterprise");
    String serSession = sess.getSerializedSession();
    String serSesEncode = URLEncoder.encode(serSession, "UTF-8");
    return ("http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/.opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID&serSes="
        + serSesEncode);
}
```

注

- ・ <server>:<port> を Web サーバーのサーバー名とポート番号に置き換えます。
- ・ <cms>:<port> を Central Management Server (CMS) の名前とポート番号に置き換えます。

- ・ シリアライズ セッションは URL エンコードする必要があります。
- ・ シリアライズ セッションを使用する OpenDocument URL にはユーザーセッションが含まれるため、セキュリティの理由から、これを共有してはなりません。

4.1.2 token

構文	説明	値
token	現在の Enterprise セッションの有効なログオン トークンを指定します。	現在の Enterprise セッションのログオン トークン。

現在のユーザーのログオントークンが含まれます。ユーザーが認証情報を要求されることなくファイルにアクセスできるように、この情報を OpenDocument URL に含めることができます。新しいログオン トークンを作成すると、1 つの追加ライセンスが使用されます。

例

次の例は、BI platform Java SDK を使用して、OpenDocument URL にログオン トークンを渡します。ILogonTokenMgr.createLogonToken メソッドの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Java API リファレンス』を参照してください。.NET や Web サービスなどの他の BI platform SDK を使用しても、同様の方法でログオン トークンを作成できます。

```
String openDocumentToken() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    EnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().login("username", "password", "<cms>:<port>", "secEnterprise");
    String token = sess.getLogonTokenMgr().createLogonToken("", 120, 100);
    String tokenEncode = URLEncoder.encode(token, "UTF-8");
    return ("http://<server>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID&token="
        + tokenEncode);
}
```

注

- ・ <server>:<port> を Web サーバーのサーバー名とポート番号に置き換えます。
- ・ <cms>:<port> を Central Management Server (CMS) の名前とポート番号に置き換えます。
- ・ createLogonToken メソッドを使用すると、トークンを使用できるコンピュータ (任意のユーザーにトークンの使用を許可する場合は空に設定)、トークンが有効な分数、およびトークンを使用できるログオン数をパラメータとして指定できます。
- ・ ログオン トークンを使用する OpenDocument URL にはユーザーセッションが含まれるため、セキュリティの理由から、これを共有してはなりません。

4.2 ドキュメントの ID パラメータ

4.2.1 iDocID

構文	説明	値
iDocID	CMS 内の表示可能なドキュメントの一意の識別子を指定します。sIDType と共に使用します。	CMS 内のドキュメントに関連付けられた数値識別子。

表示するドキュメントを指定するには、OpenDocument URL に iDocID パラメータまたは sDocName パラメータを含める必要があります。CMS には同じ名前のドキュメントが複数存在する場合があるため、各ドキュメントが一意になるように iDocID を使用することをお勧めします。

ドキュメントの識別子の値は、セントラル管理コンソール (CMC) または BI 起動パッドアプリケーション内で確認できます。各ドキュメントのプロパティページにドキュメント ID と CUID があります。BI platform SDK を使用して、プログラムから識別子を取得することもできます。たとえば、Java SDK の `com.crystaldecisions.sdk.occa.inforestore.InfoObject` インターフェイスには、OpenDocument URL を渡すことができる `getID` メソッドと `getCUID` メソッドが含まれています。

注

CUID ではなく InfoObject ID を渡す場合、sIDType パラメータを指定する必要はありません。ただし、CMS 内のドキュメントを別の CMS に移行する場合は、それらの InfoObject ID が変更されます。移行時にも維持される CUID を使用することをお勧めします。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opensdoc/openDocument.jsp?iDocID=2010
```

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opensdoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID
```

4.2.2 sDocName

構文	説明	値
sDocName	CMS 内の表示可能なドキュメントの名前を指定します。	CMS 内のドキュメントのタイトル。

表示するドキュメントを指定するには、OpenDocument URL に iDocID パラメータまたは sDocName パラメータを含める必要があります。CMS に同じ名前のドキュメントが複数存在する場合や、ドキュメントが移動されたり名前が変更される場合があるため、各ドキュメントが一意になるように iDocID を使用することをお勧めします。

注

sDocName は、ローカライズされたドキュメント名の使用をサポートしていません。sDocName を使用して CMS 内に保存されている正しいドキュメント名を参照するレガシードキュメントは引き続き機能します。ただし、代わりに iDocID パラメータを使用することをお勧めします。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?sDocName=Sales+in+2003
```

4.2.3 sIDType

構文	説明	値
sIDType	表示可能なドキュメントの指定に使用するオブジェクト識別子のタイプを指定します。iDocID と共に使用します。	<ul style="list-style-type: none">· InfoObjectID· ParentID· CUID

注

iDocID の値として CUID ではなく InfoObject ID を渡す場合、sIDType パラメータを指定する必要はありません。ただし、CMS 内のドキュメントを別の CMS に移行する場合は、それらの InfoObject ID が変更されます。移行時にも維持される CUID を使用することをお勧めします。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID
```

4.2.4 sInstance

構文	説明	値
sInstance	開くターゲット ドキュメントのスケジュールされたインスタンスを指定します。 sDocName または iDocID と共に使用します。	<ul style="list-style-type: none">・ User (現在のユーザーが所有する最新のインスタンス)・ Last (ドキュメントの最新のインスタンス)・ Param (パラメータ値が一致するドキュメントの最新のインスタンス。Crystal レポートおよび Web Intelligence ドキュメントのみ。)

例

<http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opensdoc/openDocument.jsp?sDocName=Sales+in+2003&sInstance=User>

4.3 入力パラメータ

4.3.1 lsC

構文	説明	値
lsC	SQL の生成時にあいまいさが発生する場合のコンテキストプロンプトを指定します。 注 Web Intelligence ドキュメントだけでサポートされます。	SQL の生成時のあいまいさを解決するプロンプト値。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&slDType=CUID&lsC=Sales
```

4.3.2 lsM[NAME]

構文	説明	値
lsM[NAME]	プロンプトの複数の値を指定します。 [NAME] はプロンプトのテキストです。	<ul style="list-style-type: none"> カンマで区切られた複数のプロンプト値。 no_value (オプションパラメータにのみ使用)

注

プロンプトからオプションパラメータを削除するには、openDocument クエリー文字列でこのパラメータを no_value に設定します。オプションパラメータを openDocument クエリー文字列から削除すると、デフォルトのパラメータ値が適用されます。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&slDType=CUID&sRefresh=Y&lsMSelect+Cities=[Paris],[London]
```

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&slDType=CUID&sRefresh=Y&lsMparamStringDR=[c],[d]&lsMparamNumberDR=[3],[4]&lsMparamDateDR=[Date(2003,6,3)],[Date(2003,6,4)]&lsMparamDateTimeDR=[DateTime(2003,6,1,3,1,1)],[DateTime(2003,6,1,4,1,1)]
```

Crystal レポート

ターゲットが Crystal レポートの場合は、それぞれの値を角かっこで囲む必要があります。

Web Intelligence ドキュメント

文字? は、openDocument URL の Web Intelligence ドキュメントのためのプロンプト値として予約されています。プロンプト値を lsM[NAME]=? に設定 URL 内の ? により、その特定のプロンプトのための [プロンプト] ダイアログボックスが表示されます。

OLAP Intelligence レポート

ターゲットドキュメントが OLAP Intelligence レポート (.car) の場合は、lsM パラメータを使用してプロンプトを指定できます。このパラメータは、OLAP Intelligence レポートで設定されているパラメータの一意な名前を使用して、URL エンコード文字列として渡されます。

例 メンバーセットパラメータの設定

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/openDocument.jsp?iDocID=544&siDType=InfoObject&sType=car&lsMADC216EA-D9A5-42B5-AE%2C21%2C84%2CA9%2CF9%2C6E%2C31%2C7=[%5BCustomers%5D.%5BCountry%5D.%26%5BMexico%5D],[%5BCustomers%5D.%5BCountry%5D.%26%5BCanada%5D]
```

この例は、メンバーセットパラメータを Customers > Country > Mexico および Customers > Country > Canada に設定して OLAP Intelligence レポートをビューに開きます。

4.3.3 lsR[NAME]

構文	説明	値
lsR[NAME]	<p>プロンプトの範囲値を指定します。 [NAME] はプロンプトのテキストです。</p> <p>注 OLAP Intelligence レポートではサポートされません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2 つのピリオド (..) で示されるプロンプトの範囲値。 no_value (オプションパラメータにのみ使用)

注

プロンプトからオプションパラメータを削除するには、openDocument クエリー文字列でこのパラメータを no_value に設定します。オプションパラメータを openDocument クエリー文字列から削除すると、デフォルトのパラメータ値が適用されます。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/pendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&siDType=CUID&sRefresh=Y&lsRTime+Period:=[2000..2004]
```

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/pendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&siDType=CUID&sRefresh=Y&lsRparamStringDR=[h..i]&lsRparamNumberDR=[7..8]&lsRparamCurrencyDR=[3..4]&lsRparamDateDR=[Date(2003,6,7)..Date(2003,6,8)]&lsRparamDateTimeDR=[DateTime(2003,6,1,7,1,1)..DateTime(2003,6,1,8,1,1)]&lsRparamTimeDR=[Time(1,1,7)..Time(1,1,8)]&lsRparamUnbound1=[(.6)&lsRparamUnbound2=[6..]&lsRparamStringR=[a..d]&lsRparamNumberR=[1..3]&lsRparamCurrencyR=[1..3]&lsRparamDateR=[Date(2003,6,1)..Date(2003,6,3)]&lsRparamDateTimeR=[DateTime(2003,6,1,1,1,1)..DateTime(2003,6,1,3,1,1)]&lsRparamTimeR=[Time(1,1,1)..Time(3,1,1)]
```

Crystal レポート

ターゲットが Crystal レポートの場合は、範囲を角かっこまたは丸かっこで囲む必要があります。値まで範囲に含める場合は角かっこ、範囲に含めない場合は丸かっこで囲みます。

4.3.4 lsS[NAME]

構文	説明	値
lsS[NAME]	1 つのプロンプトの値を指定します。 [NAME] はプロンプトのテキストです。	<ul style="list-style-type: none"> 1 つのプロンプト値。 no_value (オプションパラメータにのみ使用)

注

プロンプトからオプションパラメータを削除するには、OpenDocument URL でこのパラメータを no_value に設定します。オプションパラメータを OpenDocument URL から削除すると、デフォルトのパラメータ値が適用されます。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opensdoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&slDType=CUID&sRefresh=Y&lsSparamString=h&lsSparamNumber=1&lsSparamCurrency=121&lsSparamDate=Date(2003,6,11)&lsSparamDateTime=DateTime(2003,6,11,14,38,37)&lsSparamBoolean=false&lsSparamTime=Time(12,39,2)&lsSparamStringDR=a&lsSparamDateDR=Date(2003,6,1)
```

Web Intelligence ドキュメント

文字? は、openDocument URL の Web Intelligence ドキュメントのためのプロンプト値として予約されています。プロンプト値を lsS[NAME]=? に設定 URL 内の `&lsS[NAME]=?` により、その特定のプロンプトのための [プロンプト] ダイアログボックスが表示されます。

OLAP Intelligence レポート

ターゲットドキュメントが OLAP Intelligence レポート (.car) の場合は、lsS パラメータを使用してプロンプトを指定できます。このパラメータは、OLAP Intelligence レポートで設定されているパラメータの一意な名前を使用して、URL エンコード文字列として渡されます。

例 OLAP レポートの特定のページを開く

OLAP Intelligence レポート内のページパラメータの一意な名前を URL エンコードすると 23CAA3C1-8DBB-4CF3-BA%2CB8%2CD7%2CF0%2C68%2CEF%2C9C%2C6F になる場合は、次の URL を使用して、OLAP Intelligence レポートの 2 ページ目を開くことができます。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/openDocument.jsp?iDocID=440&slDType=InfoObject&sType=car&lsS23CAA3C1-8DBB-4CF3-BA%2CB8%2CD7%2CF0%2C68%2CEF%2C9C%2C6F=2
```

例 キューブパラメータの設定

MSAS のカタログ FoodMart 2000 にある Warehouse キューブを開くキューブパラメータの一意な名前を URL エンコードすると 8401682C-9B1D-4850-8B%2C5E%2CD9%2C1F%2C20%2CF8%2C1%2C62 になる場合は、次の URL を使用して、このキューブパラメータを開くことができます。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/openDocument.jsp?iDocID=616&slDType=InfoObject&sType=car&lsS8401682C-9B1D-4850-8B%2C5E%2CD9%2C1F%2C20%2CF8%2C1%2C62=CATALOG%3DFoodMart%202000,CUBE%3Dwarehouse
```


4.3.5 sPartContext

構文	説明	値
sPartContext	レポートパーツのデータコンテキストを指定します。sReportPart と共に使用します。 注 Crystal レポートでのみサポートされます。	レポートパーツのデータコンテキストの名前。

注

sReportPart の値が指定されている場合にのみ必須です。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opensdoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&siDType=CUID&sReportPart=Part1&sPartContext=0-4-0
```

注

sReportPart および sPartContext パラメータは、DHML パーツビューア (sViewer=part) でのみサポートされています。

4.3.6 sRefresh

構文	説明	値
sRefresh	ターゲットドキュメントを開いたときにデータベースを強制的に最新表示するかどうかを示します。	<ul style="list-style-type: none">・ Y・ N

一部のドキュメントには、ビューアでドキュメントを開いたときにデータベースの最新表示を行う必要があることを示す設定が保存されていることがあります。これらのドキュメント設定は、sRefresh=N より優先します。

例

`http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opensdoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&siDType=CUID&sRefresh=Y`

Crystal レポート

sRefresh パラメータは html および part Crystal レポートビューアでのみサポートされています。actx および java ビューアではサポートされていません。

4.3.7 sReportMode

構文	説明	値
sReportMode	<p>このリンクでターゲットの Crystal レポート全体を開くか、sReportPart で指定されたレポートパーツだけを開くかを示します。</p> <p>注 Crystal レポートでのみサポートされます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Full Part

注

このパラメータを指定しないと、デフォルトで Full に設定されます。sReportPart の値が指定されている場合のみ適用します。

例

`http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opensdoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&siDType=CUID&sReportPart=Part1&sReportMode=Part`

4.3.8 sReportName

構文	説明	値
sReportName	ターゲットドキュメントに複数のレポートが含まれる場合に、開くレポートを指定します。	Web Intelligence ドキュメントの場合はレポート名、OLAP Intelligence レポートの場合はページ名。

注

このパラメータを指定しないと、デフォルトで最初のレポートに設定されます。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID&sReportName=First+Report+Tab
```

4.3.9 sReportPart

構文	説明	値
sReportPart	開くターゲット Crystal レポートのパーツを指定します。 注 Crystal レポートでのみサポートされます。	Crystal レポートパーツの名前。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID&sReportPart=Part1
```

注

sReportPart および sPartContext パラメータは、DHML パーツビューア (sViewer=part) でのみサポートされています。

4.4 出力パラメータ

4.4.1 NAII

構文	説明	値
NAII	プロンプト選択ページを表示するかどうかを示します。 注 Web Intelligence ドキュメントだけでサポートされます。	Y (URL の lsS、lsM、または lsR で渡されるプロンプト値が適用され、[プロンプト] ダイアログボックスには表示されません。)

注

- NAII=Y は、URL 内で指定されていない値に対して [プロンプト] ダイアログボックスを実行します。デフォルト値で作成されたプロンプトは、[プロンプト] ダイアログボックスに表示されたままになります。
- すべてのプロンプト値が URL 内に指定されている場合、NAII=Y が指定されてもプロンプトウィンドウは表示されません。

例

この例では、Web Intelligence ドキュメントに Year および Country の 2 つのプロンプトがあることを想定しています。NAII=Y は、[プロンプト] ダイアログボックスを表示して、ユーザーが Country プロンプトの値を指定できるようにします。Year プロンプトは、既に URL で lsS パラメータを使用して FY1999 の値に設定されているので、入力を求められません。

```
http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&siD  
Type=CUID&lsYear=FY1999&NAII=Y&sRefresh=Y
```

4.4.2 sOutputFormat

構文	説明	値
sOutputFormat	ターゲットドキュメントを開く形式を指定します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ H (HTML) ・ P (PDF) ・ E (Microsoft Excel (97-2003) – Crystal レポートのみ) ・ W (リッチテキスト形式 (RTF) – Crystal レポートのみ)

注

このパラメータを指定しないと、デフォルトで HTML に設定されます。

例

`http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID&sOutputFormat=E`

4.4.3 sViewer

構文	説明	値
sViewer	選択されたレポートビューアを指定します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ html ・ part (Crystal レポートのみ)

例

`http://<servername>:<port>/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?iDocID=Aa6GrrM79cRAmaOSMGoadKI&sIDType=CUID&sViewer=html`

より詳しい情報

情報リソース	場所
SAP BusinessObjects 製品情報	http://www.sap.com
SAP ヘルプ ポータル	<p>http://help.sap.com/businessobjects/ へアクセスし、[SAP BusinessObjects Overview] サイドパネルから [All Products] をクリックします。</p> <p>SAP ヘルプ ポータルでは、すべての SAP BusinessObjects 製品とそのデプロイメントについて扱った最新のドキュメンテーションにアクセスできます。PDF 版またはインストール可能な HTML ライブラリのダウンロードが可能です。</p> <p>一部のガイドは SAP サービス マーケットプレイスに格納されており、SAP ヘルプ ポータルからは入手できません。ヘルプ ポータルのガイド一覧で、そのようなガイドには SAP サービス マーケットプレイスへのリンクが付いています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。</p>
SAP サービス マーケットプレイス	<p>http://service.sap.com/bosap-support > ドキュメンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インストール ガイド: https://service.sap.com/bosap-instguides ・ リリース ノート: http://service.sap.com/releasenotes <p>SAP サービス マーケットプレイスには、一部のインストール ガイド、アップグレードおよび移行ガイド、デプロイメント ガイド、リリース ノート、サポート対象プラットフォームに関するドキュメントが格納されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。SAP ヘルプ ポータルから SAP サービス マーケットプレイスにリダイレクトされた場合は、左側のナビゲーション ペインのメニューを使用して、アクセスするドキュメンテーションが含まれているカテゴリを探します。</p>
Docupedia	<p>https://cw.sdn.sap.com/cw/community/docupedia</p> <p>Docupedia は追加のドキュメンテーションリソース、協調的なオーサリング環境、および対話型のフィードバックチャネルを提供します。</p>

情報リソース	場所
開発者向けリソース	https://boc.sdn.sap.com/ https://www.sdn.sap.com/irj/sdn/businessobjects-sdklibrary
SAP Community Network 上の SAP BusinessObjects に関する記事	https://www.sdn.sap.com/irj/boc/businessobjects-articles これらの記事は、以前はテクニカル ペーパーという名称でした。
ノート	https://service.sap.com/notes これらのノートは、以前はナレッジ ベース記事という名称でした。
SAP Community Network 上のフォーラム	https://www.sdn.sap.com/irj/scn/forums
トレーニング	http://www.sap.com/services/education 弊社では、従来のクラス型の学習から目標を定めた eラーニング セミナーまで、学習ニーズや好みの学習スタイルに合わせたトレーニング パッケージを提供しています。
オンライン カスタマー サポート	http://service.sap.com/bosap-support SAP サポート ポータルには、カスタマー サポート プログラムとサービスに関する情報が含まれています。また、さまざまなテクニカル情報およびダウンロードへのリンクも用意されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。
コンサルティング	http://www.sap.com/services/bysubject/businessobjectsconsulting コンサルタントは、初期の分析段階からデプロイメントプロジェクトの実現まで一貫したサポートを提供します。リレーショナル データベースと多次元データベース、接続、データベース設計ツール、カスタマイズされた埋め込みテクノロジーなどのトピックに関する専門的なサポートを行います。

索引

I

iDocID 19

L

lsC 21

lsM 22

lsR 23

lsS 24

N

NAII 28

S

sDocName 19

serSes 17

sIDType 20

sInstance 21

sOutputFormat 28

sPartContext 25

sRefresh 25

sReportMode 26

sReportName 26

sReportPart 27

sViewer 29

T

token 18

い

移行 6

こ

構文 9

し

シリアルイズ セッション 11

新機能 6

せ

セッション管理 11

は

パラメータ

使用停止 7

廃止 7

リスト 15

ゆ

ユーザー セッション 12

ろ

ログオン トークン 12

